

グループワークの概要

【コーディネーター】自治医科大学看護学部 学部長 春山 早苗先生

【講評】

自治医科大学看護学部 学部長 春山 早苗先生
千葉大学大学院看護学研究科 教授 宮崎 美砂子先生

グループワークの方法 ○出席者が23グループに分かれてディスカッションを行った。

テーマ：災害時保健師活動体制整備における平時の統括保健師の役割

内容：

(1) 事前個人課題の内容の共有

災害時保健活動マニュアルの策定（改訂）や災害時保健活動に関する人材育成等における自治体の取組（実施できていること・実施できていないこと）とその要因について、内容を共有

(2) 実施できていない取組への今後の統括保健師の関わりについて考察

(3) (1)、(2) について発表

2グループが発表を行った。

発表内容

【都道府県】	○実施できていないこと、取組に関しては、派遣体制はしっかり対応してきたが、受援の体制が弱いため、その取組を強化したい。また、それに合わせた人材育成をしていく必要がある。研修については、統括保健師だけ実施している自治体と全体で実施している自治体があったが、それぞれのスキルをあげていく必要がある。 ○各市町村がつくるマニュアルの支援に今後力を入れていきたい。役割分担を明確にできるようなマニュアルを市町村と一緒につくっていくことや、県のマニュアルを改訂する時に市町村に入っていただくなどの取組が必要。
【保健所設置市】	○今後の取組としては、統括保健師の位置づけができていない自治体が研修やマニュアルができていないため、まずは統括保健師の位置づけが必要である。 ○災害時保健活動マニュアルをつくることも今後上司に諮っていく。 ○マニュアルの策定や研修を実施するためには、日頃からの保健師全体の研修やワーキングなどの体制が大事。 ○事例発表においては、組織全体として、上司の保健師への理解が良い自治体が地域防災計画などに意見が反映できている。また、統括保健師の役割を計画に明記できている。そのため、統括保健師として、組織内で、危機管理部門、人事部門の上司に保健師の活動を「見える化」していかなければいけない。

講評

千葉大学大学院看護学研究科：教授 宮崎 美砂子先生

今日発表していただいた事例から、示唆に富む具体的な方法が出ていたので、各グループから発表があった内容をさらに進めるという意味で、いくつかヒントを整理する。

[長野市]

- ・ 統括保健師が組織的に動いていた。
- ・ 課長補佐級の保健師が統括保健師を支え、しっかり連携し、統括部門を動かしていたことは、非常に特徴的な取組。
- ・ 統括保健師だけが何かをするのではなく、統括保健師が何か具体的な行動を実施しようとした時に、動ける体制をどう組織内につくるかが重要。

[熊本県]

- ・ 県庁の統括保健師が権限を持って迅速に動いていた。これは、統括保健師の存在について組織の承認があるからこそ。いざという時に権限を付与されるために、日頃の活動が大切。

[茨城県]

- ・ 災害時のマニュアルだけが単独であればよいわけではない。保健師活動指針や人材育成計画とつなげていくことが大切。災害時保健活動マニュアルの中での統括保健師の役割や組織の中での分掌のありようなどを関連づけていくことで、統括保健師の役割を組織の中で理解してもらうことができる。

[大阪市]

- ・ 統括保健師がいることでどのような意義があるかを、意識的に見せていくことが重要。

各グループで整理されたことを、事例から申しあげた示唆の部分をヒントに一步前へ動き出していきたい。

自治医科大学看護学部：学部長 春山 早苗先生

事例ごとに少しずつコメントをさせていただいた。

[長野市]

- ・ 統括保健師の役割が保健師活動の初動マニュアルに明記されていて良く伝わってきた。
- ・ 県との密な連携が統括保健師の判断に結びついたことが印象深かった。

[熊本県]

- ・ 受援については、その時々判断が非常に重要になるため、大変参考になった。日報の様式は、同じ様式を使うことで情報を集約しやすくして、業務に活かしていったことが参考になった。

[茨城県]

- ・ 応援や派遣の経験がきちんとマニュアルの改訂にシステマティックに反映されている。また、統括保健師の役割が地域防災計画や保健福祉部災害対策マニュアルに位置づけられている。さらに、市町村版の計画やマニュアルの策定支援を行っていることが、実にモデル的であった。

[大阪市]

- ・ 統括保健師の発災時の役割が地域防災計画に明確に記載されていること、また平時の役割も明確であり、それに沿って行動していることが参考になった。

各自治体の取組は、全く同じようにする必要もないし、できるということでもない。お互いの情報交換により、自治体の強みと課題を整理し、課題に関するヒントを事例発表やグループワークから得られていたら良い。